

# 奈良革新懇

平和・民主・革新の日本をめざす奈良の会 (奈良革新懇)  
〒630-8213 奈良市登大路5-5 奈良県教育会館内

【携帯】080-4243-6370 【E-mail】tukasa55122000@yahoo.co.jp

全国革新懇ニュース 465号 (奈良版)  
《発行》平和・民主・革新をめざす全国の会  
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-7-8  
千駄ヶ谷尾澤ビル1階

2024年12月  
2025年1月 合併号

216号



## 今後の運動の柱としての「共同」と「まちづくり」



伊藤 満さん

1957年、桜井市生まれ。2022年、奈良県議会議員に就任。2024年、奈良県議会議員に就任。部落解放同盟中央本部書記次長。

部落解放同盟奈良県連合会執行委員長

伊藤 満さん

私は四十歳の時に「県連」(部落解放同盟奈良県連合会)に入り、それまでは桜井

市役所の職員でした。解放同盟は部落差別が一番重たい差別だと言っている方をし

て運動を展開してきましたが、差別に「重い」も「軽い」もないのではないかとこの

が四十歳ぐらいの私の問題意識でした。その当時、部落史の見直しが私のかい

いで議論になり、「士農工商」の身分制度は江戸幕府がつくったという政治起源説か

ら民衆の中から差別が生まれていったとい

う社会起源説に転換していききました。同和对策審議会答申は、部落差別を実

態的差別と心理的差別に分け、実態的差別が心理的差別を生むのであって、実態的

差別がなくなれば心理的差別はなくなる

と述べています。でも実際の差別は、部落の人がお金持ちになろうがなるまいがあるわけです。格差を是正するというだけの方

向は間違っているのではないかと。部落史の見直しに関わって、なぜ民衆の中から差別

が生まれるのかということが課題となっ

て、奈良県でも「差別とは何か」「部落差別とは差別の中でどういう特徴を持つか」

という議論をしていききました。部落差別に限らず、差別一般はどうい

うメカニズムで起っているのかという議論を社会心理学の知見にも学びながら行

つてきました。人間は自尊感情なしには生きていくこ

とはできません。自尊感情が何らかの理由

で傷つけられたりすると、自分より劣っている人やグループに属する人を見下して

差別し、自尊感情を回復しようします。だからと言って差別は「必要悪」ではなく、差

別はそれほどに人間の生活から切り離し

にくく、なくすためには日常不断的努力が必要だと考えています。

序列的な価値観が支配的な社会や多様性が認められないような社会では差別に

頼る必要の頻度が高くなります。自尊感情を大切にすると、多様性を承認する

社会を私たちがめざす理由がここにあり

ます。人間関係の希薄化とか差別の問題を考

えると、地域づくりの課題は重要です。部落差別はもともと地域共同体を単位とし

た差別であり、部落解放運動も被差別部落単位の運動を基本に展開しています。日

本の社会における個人は、共同体への帰属意識によって支えられている部分が大きい

と言われます。こうしたことを考えると、

個人の自尊感情を保持するには、地域共

同体の自尊感情、つまり「地域アイデンティ

イティ」の確立が必要です。自分の住む地域に誇りと愛着を持ち、

それを心の拠り所として、差別に対峙す

る、あるいは部落外の人たちと共同の取り

組みを展開することができるのではない

かと思っています。奈良県連では、その「地域アイデンティティ」を「差別の痛みを知る、人に優しいまち」という言葉で表し、相互扶助、社会的包摂、自治と自己決定の共同

体をめざすまちづくりに取り組みたいと考えています。

私は桜井市の大福に住んでいるので

が、1980年代に昔の祭りが復活し、最近では神社の定期的な清掃などにも関わ

っています。また、小学校の先生から「遅刻・欠席が増えてきている子どもがいるので、

その親と繋いでもらえないか」という相談があり、子ども食堂が始まりました。子

どもの低学力の問題を目の当たりにして

「勉強会」をしようということになり、子ども食堂や勉強会の帰りに子どもたちが

いっしょに公園で遊ぶということにも繋が

っています。こうしたことに関わる人を増やして「まちづくり」みたいなことにしていけないかなあと思っています。



# 奈良革新懇 2024 年総会を開催

# 「さよなら自民党政治」の大運動を奈良から 力合わせ、革新懇の3つの共同目標を高く掲げて踏み出そう

「平和も暮らしも福祉も教育も、日本をダメにした自民党政治を終わらせよう」革新懇の3つの共同目標を高く掲げ、奈良県において統一戦線運動の発展・前進に向けて奮闘しよう」をスローガンに、12月14日、奈良革新懇は2024年総会と情勢学習会を奈良市で開催しました。

## 大運動の二本柱を提起

深澤事務局長は「報告と提案」



情勢学習会で全国革新懇事務室長の小田川義和さんが「新しい政治情勢下での革新懇の役割と課題」をテーマに講演しました(写真中央)。

小田川氏は、自公与党が過半数を割り、改憲勢力が3分の2を下回るなど「一強多弱の国会が大きく変化した」と強調。最新の情報をおり込みながら、自民党の「カネと政治」「癒着」や戦争する国づくりへの暴走、大企業中心の経済政策による経済衰退などをとりあげ、直面する要求の一致点での共闘の追及と「さよなら自民党政治」の大運動を呼びかけました。



深澤事務局長が総会議案書にもとづいて「報告と提案」を行いました。

奈良県では、脱原発の運動から出発して「総がかり行動」的な平和と民主主義の前進めざす一点共闘が前進しつつあります。奈良県における統一戦線運動発展を展望して革新懇の役割発揮が求められています。

以上のような壮大とも言える革新運動を實踐する上で革新懇づくりは急務であり、高齢化等により活動が停滞、後退している現状も率直に報告されました。

## 革新懇の3つの共同目標

- ① 日本の経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
- ② 日本国憲法を生かし、自由と人権、民主主義が発展する日本をめざします。
- ③ 日米安保条約をなくし、非核・非同盟・中立の平和な日本をめざします。



新しく代表世話人になっていただいた奈良民医連会長の津島寿幸さんが閉会挨拶。

で、総選挙で自民党「一強」が崩れて自民党政治の終焉の扉が開かれたが、この政治状況の変化を本物の変化にいくために「さよなら自民党政治」の大運動の強化を訴えました。

その具体化の二本柱として、

① 行き詰まった自民党政治に代わる新しい政治を実現する展望の共有を深く広くはかるための連続学習会を開催する。

② 市民と野党の共闘の力で、参院選で政権交代を広く県民に

呼びかける共同街頭宣伝を行うことを提案。

また、革新懇が市民連合の運動に埋没することなく、3つの共同目標を掲げた革新懇独自の役割の発揮が求められる情勢であることが強調されました。

来年夏の参議院選挙は「さよなら自民党政治」の第二ラウンド。

「市民と野党の共闘」を支えると同時に、革新懇の3つの共同目標を支持する政治勢力の躍進に向けた取り組みを強めることが呼びかけられました。

役員や事務局だけで組織拡大や地域革新懇づくり、活動の活性化は

できませ

ん。目標と計画を

みんなで共有し、

団結して

組織強化

に取

り組

むこと

が呼

びか

け

られ

まし

た。

# 憲法を実現する政治に転換を

## 総会の「討論」で10人が発言+文書発言4人

- ◆河戸憲次郎さん(奈良県平和委員会)「平和運動のさらなる強化を!」
- ◆溝川悠介さん(生駒革新懇)「祝園ミサイル弾薬庫問題と“原発ゼロ・被災者支援 奈良のつどい”の取り組み」
- ◆竹末和美さん(奈労連)「最低賃金引き上げの取り組み他」
- ◆白川史恵さん(日本共産党奈良県委員会青年・学生担当)「学費・奨学金アンケートに寄せられた声」
- ◆新子和久さん(奈教組)「奈教組の取り組みと『総がかり行動』的な運動の前進の展望」
- ◆井上あや子さん(新婦人)「関西万博、選択的夫婦別姓、能登半島支援ボランティアについて」
- ◆大槻烈さん(市民連合中南和)「奈良県下の統一戦線運動の現状と課題について」
- ◆山村幸穂さん(日本共産党県議)「山下維新県政の問題点と県議会での論戦について」
- ◆宮本次郎さん(日本共産党奈良県委員会)「先の衆院選の奈良県での結果と『新しい政治プロセス』の奈良県でのあらわれ」
- ◆佐藤真理さん(自由法曹団・国民救援会)「政権に忖度するNHKを国民のためのNHKにするために」  
《文書発言》
- ◆園部勝章さん(奈良市革新懇・科学教育研究協議会)「今回の奈良教大附小の『出向』と『配転』は奈良教大附小の教育を押し潰そうとするものであり、法に照らして認められるものではない」
- ◆西ふみ子さん(奈良生活と健康を守る連合会)「ストップ！戦争への道」
- ◆桧垣泰弘さん(奈良市革新懇)「奈良市革新懇の取り組みについて」
- ◆西本守直さん(奈良市革新懇)「奈良市革新懇の活動の報告」



発言する白川史恵さん



### 革新懇全国交流会 in 京都に奈良県から52人が参加



全体会でミニ講演をする日本共産党の田村智子委員長

11月30日～12月1日に京都市内で開催された革新懇全国交流会(1日目の全体会に570人、2日目の分散会・分科会に250人が全国から参加)に奈良県から52人が参加しました。全体として総選挙によって参加組織が遅れ、他の取り組みや行事が重なったことから奈良県の目標とした「100人以上の参加を」には届きませんでした。2年前のコロナ禍での東京(奈良から3人の代表派遣、視聴会に6人の参加)、5年前の神戸(全体会に2,000人超。奈良県から41人の参加)を大きく超える奈良県からの参加となりました。「元気が出た」「まさに革新懇の出番だとよくわかった」などの感想が奈良県の参加者から届きました。

### 奈良革新懇総会の感想文より

●「さよなら自民党政治」が求められるのはその通りであります。ただし、国民の要求を共有化していく役割として、革新懇としても様々な民主団体としても、「若い世代へどうバトンを渡すのか」についてもややもやしていると思います。おそらくSNS等でしか若者へのメッセージは届かないかと思われま。テレビも新聞も見ない、すべてネットの世界で生きているからです。彼らに届くメッセージをよく考えないといけません。短く、わかりやすく、そして

彼らの中心課題に届く内容・・・これが成功すれば大きく変化がつかれると思います。ですが、まだまだです。まず、すぐ隣りにいる若者に聞いてみる。その活動から始めてみては、と思いました。

吉兼未来(奈良民医連)  
●少数与党となった自民だが、先行きは予断を許さない。ナチスが台頭して政権をとっていった状況を想起させる。現在の劇場型選挙の状況にも危惧している。それと意識的に対抗していく連帯が必要だと強く思います。

村木敬(天理市議)

### ◆編集後記◆

◆5年前、奈良革新懇ニュース1面に登場した部落解放同盟奈良県連合会の川口正志委員長(当時)に続いて、伊藤満委員長へのインタビューを12月10日に行い、今号の1面記事となりました。市民連合中南和の浅川肇さんに仲介の労をとっていただきました。八鹿高校事件から50年、内心ドキドキのインタビューでしたが、伊藤委員長の誠実なお話であったという間の1時間でした。◆日本被団協へのノーベル平和賞授賞式での田中熙巳代表委員のスピーチ、民主主義を守り抜いた韓国市民の勇気ある行動に励まされて14日の総会を迎えました!!

